

分析窮理所遺構移設完了に伴う記念イベント報告

岸川 直哉 (平10)

令和4年6月20日(月)に、分析窮理所の遺構の整備が完了したことに伴い、長崎市主催・長崎大学薬学部共催で長崎市立仁田佐古小学校の6年生および近隣住民を対象とした記念イベントが開催されました。分析窮理所は、長崎大学薬学部の源流として日本で初めて近代西洋理化学教育(基礎薬学教育)が行われた理化学学校で、「分析」は化学、「窮理」は物理のことを意味します。

最初に工学部の出水先生よりのご挨拶の後、長崎市文化財課の宮下様より分析窮理所の当時の姿の説明や発掘作業について説明がなされました。続いて、薬学部を代表して川上茂先生(平7)より、分析窮理所で活躍した人物と薬学の歴史についてプラタモリを意識した講和が行われました。佐古小学校でのご自身の経験やクイズを交えながらの進行であり、参加者は真剣に聞き入っていました。引き続き、環境科学部の後藤先生より分析窮理所の保存に関する課題と今後の活用法についての説明がなされました。この後、参加者を2つに分けて薬用植物の植樹や測量操作の体験といったイベントが実施されました。薬用植物の植樹では、川上先生よりミントやスイートマジラム等の植物の薬効の説明や柳とサリチル酸を例にとった植物由来の薬に関する説明があり、小学生は取り囲んで熱心に聞いていました。その後、全員集合して屋外でのドローンによる記念撮影が行われました。最後に、参加した小学生より川上先生へとお礼が述べられた後、川上先生より激励のメッセージが送られてイベントは盛会のうちに終了しました。このイベントの参加を通じて、興味を持ってくれた小学生が将来医療や科学の道に進んでくれることを願っております。



講話を行う川上教授



※写真引用：長崎大学HP (<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/news/news3641.html>)